

# 山口県医療の風便り

発行所 山口県健康福祉部医務課

〒753-8501 山口市滝町 1-1

TEL 083-933-2924 FAX 083-933-2939

平成 17 年 8 月 1 日号 No.1 (創刊号)



柳井市平郡島 平郡東集落 (大嶽頂上より 千葉文博医師 撮影)

「地域医療の現場より (柳井市平郡島 千葉文博医師)」	2
「この“山口県医療の風便り”が目指すもの」	4
「山口の今！」	5
「山口県内医療機関紹介」(豊田中央病院)	6
今後継続発送を希望される方の手続き方法	7

## 「地域医療の現場より（柳井市平郡島 千葉文博医師）」

～ 離島医療に望んで...離島の正と負... ～

第1回の「地域医療の現場より」は、瀬戸内海の離島、柳井市平郡島の診療所でご活躍されている千葉文博先生にお話をうかがいました。

### 千葉 文博医師 プロフィール

平成9年自治医科大学医学部卒業。山口県立中央病院（現 総合医療センター（防府市））で2年間初期臨床研修を受け、玖珂郡錦町の錦中央病院に3年間赴任。再び県立中央病院での1年の後期研修を終えた後、平成15年6月に当地に赴任。「医者7年目に初めて経験する離島医療でした。不安と期待で胸がいっぱいだったのをよく覚えています。」と千葉先生。性格は明るく、

住民の方々の信頼は厚い。

趣味は、島でのソフトボール（+試合後のビール）釣り、素潜り、船舶免許取得など、幅広く活動的。



Q：診療お疲れ様です。診療する立場として、市内の病院勤務とはかなり違いますか？

A：平郡島には、東に診療所、西に出張診療所があります。島内の医師は私一人で、医療行為はすべて任されます。診察はもとより、血液検査（血球測定）心電図、検鏡、レントゲン撮影、胃内視鏡、エコーなどの種々の検査も行います。病院だと技師にして頂けるものも自分でしなければなりません。器機の扱い、消毒や管理は不慣れで、説明書を読みながらの毎日でした。余裕がなく診療に時間がかかったものです。以前は検査用紙一枚で結果が出ていましたが、“全ての検査を自分で行う”立場に立ってみると大変なことだということがよくわかります。昨今、医業分野の細分化がますます進んでいますが、私たちはこのようなことを忘れないようにしないとダメです。（中略）..在宅訪問診療は自転車で行きます。のどかな景色の中、心地よい海風にあたりながら向かうのはおつなものです。道行く人々に挨拶をしながら“白衣”で“自転車”、島ならではの光景です。

Q：急患への対応は、いろいろご苦労があるのでしょうか？

A：急患が出た場合は大変です。定期便は1日2便しか出ていませんので、ほとんどが一般漁船を利用した救急搬送になります。海が大荒れの時は出せないこともあり、天候に大きく左右されます。疾患の多くは、外傷・骨折、心筋梗塞、脳卒中です。初期治療は迅速に判断しながら最低限必要なことを行い、海上搬送へとつなげていきます。船の中ではほとんど処置は行えません。一度、大時化（しけ）の時に搬送した経験がありますが、自分の体勢を維持することができない中で、患者様の体を必死で固定していました。脈をとるのがやっとの状況でした。

Q：離島の医療は、つらいことばかりですね...

A：いえいえ、決して悪いことばかりではありません。内科的治療はもちろんのこと、診療所で関節注射や小手術など外科的治療を行うことで「島を出ないでも診療所でしてもらえ」と患者様に大変喜んで頂けます。（独居の高齢者の方が多く、船で本土に出ることができなかつたり、たとえ本土に出ても泊まりがけになってしまう事情があるのです。）



写真1

また診療所で腫瘍などの疾患を見つけると、本土で手術・加療した後、再び診療所でフォローします。一人の患者様を、その人の住み慣れた島での生活を大切にしながら、一貫して診療できることは離島医療の醍醐味でもありますし、医者冥利に尽きるというものです。末期の患者様に対しては往診を行い、できるだけ島でお見送りするようにしました。住み慣れた自宅で最期を迎えることができたとしても感謝していただけました。

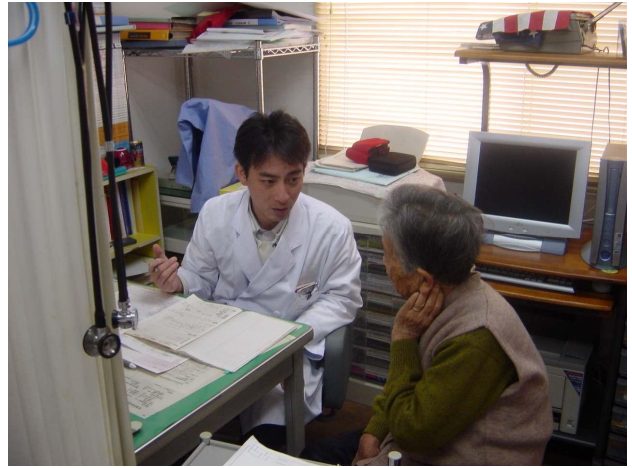


写真3

Q：ご家族について、何か教えていただけますか？

A：島では家族4人で生活しました。子供は3歳男児と1歳女児の2人です（さらに本年 月、3人目の男の赤ちゃんが誕生！）。実は赴任時、島民内に子供は一人もいなかったのです。前年度に最後の小学生が卒業し、小学校が休校になったばかりでした（中学生以上は本土で寮生活）。当然、幼稚園や保育園はなく、週に2回ほど本土の幼稚園に通わせました。島にいる間は、島民の方々が子供たちの面倒をみてくださり、一緒に遊んでくださいました。休みの日には畑の芋掘りやミカン狩りなどにも誘って頂き、子供たちはとても喜んでいました。子供たちを連れて海で泳いだり、貝を捕ったり、釣りに行ったり、カブトムシやクワガタなどの昆虫採集もしたものです。このように多くの自然にふれながら子供を教育していくことは現代生活の中で得難い経験であり、必ずや子供たちの記憶の中に根強く残り、これからの人生に於いて大きな糧となる、と信じています。

Q：最後に、若い読者の方々にメッセージをお願いします。

A：初夏の陽光がきらめく瀬戸内海をフェリーの上から眺めながら平郡島に向ったあの日が、医者7年目にして初めての経験となる離島医療のスタートでした。離島には「正」と「負」の部分があります。今までお話ししたように、本当に島に住んでみると、「正」の部分が思っているよりもずっと多く、そして今まで見えなかったものが見えてくることもあります。また「負」の部分は、考え方、とらえ方、行動の仕方です。「正」に代わることも学びました。

Q：本日は、お忙しいところありがとうございました。今後のますますのご活躍を期待いたします。

A：ありがとうございました。

...今日は千葉先生にお話をうかがうことができました。読者の皆さんは離島医療について、どのような関心をお持ちになりましたか？



写真2

【写真について コメント】

写真1：自転車に乗って颯爽と往診先へ。

写真2：往診先の診療。先生の患者さんに対する言葉は優しい。しかし、その視線は真剣。

写真3：診療所での外来診療。まさに、膝と膝を付け合わせる関係。



【平郡島メモ(平成 16 年 10 月末現在)】  
 総面積 16.9km<sup>2</sup> 島周囲 31km  
 人口 566 人 (65 歳以上高齢化率 68.0%)  
 主産業：たこ漁・みかん栽培

ここが、  
平郡島！

伊予灘と周防灘にはさまれて浮かぶ平郡島の名前の由来...源平合戦の頃、源義仲(木曾義仲)は、時の天皇にたてつき、追われ殺害された。その子、平栗丸(へぐりまる)は、紀州の武将鈴木仲光の庇護を受け、平家残党の源氏狩りから身を守るため平郡島へ流れた。平栗丸は幼くして死去、その名にちなんでこの島を「平栗島」と呼び、後年、平郡島になったといわれる。



**この“山口県医療の風便り”  
がめざすもの**

この「山口県医療の風便り」は、山口県が山口県医師会・山口大学などと協力し、山口県の医療に関係する情報を、定期的(年3～4回)に発信したいと考えています。

「住み良さ日本一」をめざしている山口県は、他の都道府県に比べてもたくさんの良いものがあります。豊かな自然、都市部や山村部の生活環境、便利な交通事情なども、多くの方々が「いいねえ」と評価しています。

そして「健康」という、かけがえのない大切なものを守る「医療」についても、山口県は日本一をめざしています。

最先端医療を施す専門科医師も、地域で活躍する総合医も、どちらも重要です。医療支援体制の整備や、それを支える優秀な

医師の確保は、様々な社会的ニュースで取り上げられている重要なテーマです。ここ山口県においても継続的な取り組みが求められています。

これから将来、優秀な若い医師が「山口って、いいね」と感じて、山口県の医療の発展のために、力を貸してくださることを期待しています。山口の“今”を知ってもらうことが、地道ながらも重要な取り組みだと考えました。

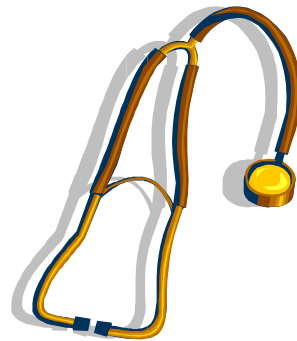
できる限り、生の声を集め、定期的に「情報発信」し、逆に若い皆さんからの声を県内の医療関係者に届け、相互の情報交換がすすむことも夢です。

今回はこの「山口県医療の風便り」の「創刊号」を作成し、多くの方々に配布させていただきました。この主旨にご賛同いただけます方には、今後も無料でこのジャーナルを定期的に郵送させていただきます。末頁の申し

込み用紙に、住所・氏名を記入しFAXしていただくか、または担当者メールアドレス宛てにメール連絡してください。

ご不明な点につきましては、下記山口県医務課にご連絡ください。

山口県は、若い力を求めています！



## 山 口 の 今 !

### 白猿の湯

(朝日新聞HP [続・一筆啓上] より)

山口県内の3大温泉地といえば山口市の湯田温泉、長門市の長門湯本温泉、豊浦町の川棚温泉になるでしょうか。お湯のほかに、食事を含めた宿泊設備の充実度を加味すれば、これらの温泉に軍配をあげざるを得ません。でも県内にはもう一つ、古くから近郷の湯治場として知られた温泉があります。長門市の山中にある依山温泉です。

「温泉街はもともと外湯を中心に開けたのである。湯治客も一般客も、宿から浴衣を着て下駄履きでお気に入りの外湯に行き、風呂に浸かる。帰りは市場に寄ったり、商店で土産物などを買って帰る。ここには、そうした明治、大正期さながらの外湯文化がそのまま残されていて感動すら覚える」(松田忠徳著・温泉教授の日本全国温泉ガイド・光文社新書)。

温泉博士として名高い札幌国際大学の松田教授がべたほめの温泉です。彼はまたこうも書いています。「これだけの大きな規模の温泉街で、温泉場形成の基本がそのまま息づいている所は、温泉国日本でも依山しかない」(同書)。ここの温泉には37の旅館、民宿がありますが、館内に風呂(内湯)を持っている所はごくわずかです。湯治客は宿から街中の共同浴場「町の湯」か「川の湯」に出かけます。

昨年12月20日、この依山温泉に3つ目の共同浴場がオープンしました。「白猿の湯」がそれです。依山温泉は約1100年前に薬師如来の化身だった白猿によって発見されたという伝説に基づいた命名です。先輩格の共同湯と同じく泉質はアルカリ性単純温泉。泉温は40.6度、無色透明ながらPH9.8という日本有数のアルカリ含有量を誇っています。

男湯、女湯ともややぬるめの1号湯と熱めの2号湯、それに寝湯つきの露天風呂があります。営業時間は午前7時から午後9時まで、レストランもあって年中無休です。肝心の入浴料は大人700円、小学生500円、幼児300円。おもしろいのは入口に犬、猫用のペット湯もあるのですが、ここは2月初旬まで利用できません。

温泉好きの私としては、オープン時からずっと気になっていたのですが、先日、やっと入ってきました。木の香ただよう館内から浴室に入ると、1号湯にも2号湯にも見事な「湯の花」が咲いています。温泉の含有物が表面に浮き出したもので、これを見ただけでも正真正銘のホンモノ温泉ということが分かります。

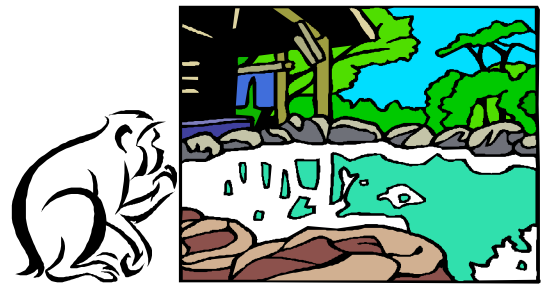
お湯はアルカリ性温泉特有のヌルリとした肌触り。古くから効能があるとされてきたリウマチや神経痛のほかに、美肌にもよさそうで、女性には特に喜ばれそうです。30分も出たり入ったりしていると、体の芯から温まってきます。少し気になったのは露天風呂。100%かけ流し温泉とうたっている割に、少し塩素のにおいがするように感じました。お湯の肌触りも1号湯などと違うように感じたのは私だけでしょうか。錯覚であればいいのですが。

古いけども品格のある旅館が両側から迫る通路をのんびり歩いていると、今が平成の時代だということが信じられなくなりそうです。先日の大雪の日は車も通れなくなるほどでしたが、それだけに訪れる人の感動も深くなります。春の桜やツツ

ジ、旅館街の南に清流の正川が流れていて、ここには6月初旬に天然記念物のゲンジボタルが飛び交います。秋の紅葉も見事です。

最後に、再び松田教授の著書から次の言葉を紹介しておきましょう。「ぜひこの日本の原風景を訪れてみて欲しい。ここの空気に安らぎを覚えたなら、あなたはまぎれもなく日本人であることを意識するに違いない」

【中山 堯 氏（朝日新聞防府支局長）】



## 山口県内 医療機関紹介

## ～ 豊田中央病院 ～

華山のふもと、下関市の北部に位置する豊田地域は、良質の温泉にも恵まれ、夏には木屋川の清流にホテルが飛び交う、風光明媚な地域です。

私共の豊田中央病院は、昭和27年この地に設立され、50年余の間、開業医の方々と共に地域医療を担ってまいりました。病床数は71床と比較的小さな規模の病院ですが、その分、病院スタッフ全員が、患者様との心の通う医療と看護に努め、小回りのきくきめ細やかな対応を心がけております。

当院外来は内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、リハビリテーション科、眼科を標榜し、地域に根ざした医療を展開していますが、ニーズが高い眼科診療には特に力を入れています。例えば、白内障の手術については、手術当日とその術後の期間、満足のいくケアを提供できるように平成16年に眼科専用の病床を設けました。

おかげさまで患者様からは、今まで以上に満足の声を数多くいただいております。スタッフ一同ますますの向上を決意しているところです。

これからも一層、良質な全人的医療をこの地域に提供できるよう、努めてまいりたいと思っております。



【豊田中央病院の連絡先】

下関市豊田町矢田 365-1

電話：0837-66-1012（代表）

FAX：0837-66-1439

## この「山口県医療の風便り」を今後も継続希望される方の手続き方法

いかがでしたでしょうか？

この「山口県医療の風便り」は、今後も情報をいろいろな視点から幅広く集め、無料で年3～4回発送させていただきます予定です。

次回第2号以降は、ご希望の方々に発送させていただくこととしております。

つきましては、今後の発送もご希望される方は、お手数ですが下記の申込用紙に、

ご氏名

ご年齢

ご住所（送り先）

メールアドレス（お持ちの場合）

をご記入の上、FAXにてお申し込みください。

また、メールでも受け付けています。「山口県医療の風便り継続希望」とご記入の上、上記～をお知らせください。

あわせて、この内容についてのご意見やご希望などもご記入いただけますと幸せに存じます。



申込先：山口県健康福祉部医務課（担当石丸）宛て

〒753-8501 山口県山口市滝町1-1

FAX：083-933-2939

メール：ishimaru.yasutaka@pref.yamaguchi.lg.jp

**山口県医療の風便り継続申込書**

FAX：083-933-2939

（山口県健康福祉部医務課 担当（石丸）行）

今後も「山口県医療の風便り」の発送を希望します。

ご氏名	
ご年齢	
ご住所（ご送付先）	（〒 - ）
メールアドレス	@
この山口県医療の風便りに に関するご意見やご希望など （自由記載欄）	